

八基連だより



絹の道資料館(鍵水)

<http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/>

10月号 第254号

発行日 平成24年10月1日(月)

発行所 八王子囲碁連盟

住所 八王子市台町3-22-1-121

TEL (042) 625-9529

発行人・三上 靖宏

編集者・山縣 文雄

八王子囲碁連盟の目的

八基連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

私の囲碁歴と格言

石川囲碁同好会会長 松本 健彦

私は最近大和田小学校で放課後に子供達に囲碁を教える手伝いを始めました。初めての子供たちには最初、石取りゲームから教えるようですが、大変難しいと感じました。そして、私はどのようにして覚えたか考えてみました。確か、小学校の高学年の時、始めました。幸い家に碁盤があり、父が打っていたためと思います。碁を打つようになってからは、それまで小学生の中で割合強かった将棋より、碁の方が面白いと感じ、その後、将棋はあまり指さなくなりました。

ただ、30歳ごろからは会社で昼休みに碁を打ちましたが、それまでの期間は誰と何時ごろ打っていたのか記憶にありません。大学生のころ国立の碁会所へ2~3回行き、1度は若手プロ棋士に3面打ちの指導碁を7子で受けた記憶があります。30代後半から時間のある時は多摩ニュータウンの囲碁同好会に参加していました。40歳ごろ友人の誘いで、棋院で行われた基幹産業囲碁大会に会社のBチームの一員で参加し、全勝して友人の推薦で飛びつき2段の免状を頂きました。

覚えた経緯は、父が囲碁月刊誌を購読していたため、これや、その付録の小冊子を時々読んでいました。最近ではあまり定石や囲碁の格言は言われなくなりましたが、私はこれらで碁を覚えたように思います。

特に、「一間飛びに悪手なし」「切違い一方ノビよ」「ポン抜き30目」「サバキはツケよ」「二目の頭は見ずハネよ」など皆さんも良く御存知の格言も多いですが、「二線ハウベからず」「二線は負線」やその反対に「四線は勝線」、「大場より急場」など何十種類もあるようですが、格言を参考にすると、悪手が少なくなり、若干は強くなると思います。

また、格言ではないと思いますが、私が最近時々注意していることは、特に布石の段階ですが、自分が打ちたい方策ばかりを考えるのではなく、相手が打ちたいのはどこか？をちょっと考えると打ち方が変わると思います。(視野が広がり、最善手に近づく)

へボ碁で、うっかりミスが多い私ですが、初心者の方の参考までに書かせていただきました。

今年は昨年に続き、八碁連の競技担当として、長房の安西理事と分担し各地区大会に出向いています。各地区大会・本部大会の折はよろしくお願いたします。

囲碁大会のお知らせ

1. 第62回市民文化祭囲碁大会

主催 八王子市民文化祭実行委員会 八王子市他

日時 11月3日(土・祝日) 午前9:30から受付開始

会場 東浅川保健福祉センター 4階 第5・6・7集会室

対象 八王子市民 及び市内在勤 150名予定

参加方法 八碁連の会員は事前に申し込む、一般市民は直接会場へ

参加費 1,000円(昼食を含む) 高校生以下500円

2. 第23回八碁連囲碁大会

主催 八王子囲碁連盟 後援 日本棋院・八王子市

(1) 3段以上

日時 11月11日(日) 午前9:10から受付

会場 東浅川保健福祉センター 4階 第5・6・7集会室

会費 700円(昼食を含む)

(2) 2段以下

日時 12月 2日(日) 午前9:10から受付

会場 東浅川保健福祉センター 4階 第5・6・7集会室

会費 700円(昼食を含む)

申し込み期限 10月20日(日)

各同好会会長は 理事 山縣まで申し込み用紙を提出してください。

〒192-0912 八王子市絹ヶ丘 3-39-14 山縣文雄

Fax 042-676-9298 または

メール fumio8106@nifty.com でも結構です。

八王子市子ども囲碁大会

主催 八王子囲碁連盟

後援 八王子市教育委員会 協力 八王子市東浅川保健福祉センター

日時 平成24年10月14日(日)

受付 午前の部 9時20分 13路盤競技者

午後の部 13時 19路盤競技者

会場 東浅川保健福祉センター4階 第5集会室

競技方法 ハンデなしのスイス方式 3回戦

参加資格 八王子市に在住、または通学している小学生・中学生

定員 13路盤・19路盤ともに先着32名

参加料 無料(昼食は各自ご用意ください)

応募要領 往復はがきに次の項目を記入して申し込む。

①住所 電話番号(連絡先) ②名前(ふりがな) ③学校名 学年 年齢

④午前(13路盤)・午後(19路盤)を明記 ⑤その他 段級位、所属囲碁教室など

返信面に宛名を書いて8月1日～10月7日(必着)

宛先 〒193-0931 八王子市台町3-22-1-121 八王子囲碁連盟 三上靖宏

問合せ 電話 042-625-9529 三上



お孫さんに参加を呼びかけてね!!

第22回 生きいき囲碁大会の結果

北野大会

参加者

9月16日(日) 於 北野市民センター

北野	浅川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	由木	長房	川口	非会員	計
39	8	4	1	2	6	3	1	1	3	3	3	74

Aクラス (4段～7段) 24名

優勝:古賀照也 北野/6段 準優勝:山縣文雄 北野/6段 3位:石坂慶通 北野/6段

Bクラス (2段～4段) 25名

優勝:望月成一 浅川/4段→5段 準優勝:山本林 北野/4段 3位:佐々木胖充 北野/4段

Cクラス (5級～2段) 25名

優勝:久保田勇 元八王子/初段→2段 準優勝:櫛島正一 北野/初段 3位:近藤亮弘 長房/初段

研修部囲碁大会・研修会の結果

1. 平成24年度研修会前期昇格者

(1) 東浅川研修部

氏名	段級	所属	出席数	勝数	負数	勝率 (%)	昇格
鈴木吉治	4段	長房	13	27	9	75	→5段
高取民治	4段	川口	14	27	8	77	→5段
西村 宏	2級	長房	16	32	9	78	→1級
根本 清	3級	大和田	16	35	3	92	→2級

(2) 南大沢研修部

昇格該当者なし。

2. 研修会前期大会

(1) 東浅川研修大会 平成24年9月15日

	優勝	準優勝	3位
Aクラス	池田清吾 5段/恩方→6段	高取民治 5段/川口	長島 廣 4段/元八
Bクラス	白石好伸 初段/台町→2段	棚島正一 初段/北野	渡辺恵介 2段/川口
Cクラス	根本 清 2級/大和田→1級	西村 宏 1級/長房	今井俊郎 1級/台町
Dクラス	佐々木良輔 4級/台町→3級	桑川次男 5級/元八	荒畑昭一 4級/川口

(2) 南大沢研修会大会 平成24年9月1・8日

	優勝	準優勝	3位
全員同一 クラス	南条晴彦 2段/由木→3段	中森久隆 初段/由木	和田幸彦 3段/由木

◎ 平成24年度前期タイトル獲得者

	名人	王座		天狗	
	優勝	優勝	準優勝	優勝	準優勝
浅川	真田誠次 7段	上野純親 5段	高索信幸 6段	浜端 武 2段	高索信幸 6段
恩方	中邑 豊 7段	五十嵐寛 7段	竹内朝晴 5段	徳満英世 5段	五十棲健一 5段
元八王子	山下則文 6段	中村幸雄 5段	山田清志 初段	知沢吉雄 4段	入山慧三 6段
中野	宮崎誠一 5段	磯部信広 6段	浜道 進 4段	清水文彦 6段	矢野亮一 4段
大和田	根本 清 1級	佐藤久雄 4段	八木義光 4段	鈴木浩治 6段	根本 清 1級
石川	金本好正 6段	平松隆治 3段	二宮 学 5段	木河 専 2段	平松隆治 3段
台町	高本 衛 7段	相馬康三 7段	渋谷昭男 4段	塩津 浩 6段	古賀憲秀 3段
由木	大場美美夫 7段	中村士朗 1級	菊地武男 初段	高浜正三 6段	奥山武平 4段
北野	古賀照也 6段	安原 明 5段	山本 林 4段	佐藤義廣 6段	吹上吉輝 3段
長房	藤盛 茂 5段	川合義章 4段	塚原和利 7段	戸谷富美雄 5段	大房賢次 2段
川口	井上国臣 5段	荒畑昭一 4級	辻日出男 4段	高取民治 4段	廣島松治 5段

§：タイトル獲得者は後期タイトル獲得者と共に平成25年2月10日に開催される八碁連タイトル囲碁大会に参加できます。但し、王座・天狗のタイトル戦については、タイトル獲得者が参加できない場合、あらかじめ届けのあった準優勝者が参加できます。

投稿

足摺岬と囲碁の道 つづき

北野囲碁同好会 刀根正樹

(二)

『虎彦の 足摺岬に津波あり』

田宮虎彦の「足摺岬」には、その風景を三陸津波のような恐ろしい姿に描いている。私の見た足摺の海とは別の世界のものであった。

『寂しい部落をすぎ、道が崖肌をはって左に折れた時、不意に暗い雨雲におおいつくされた怒涛の果てしないつらなりが、私の目の前にくろぐるとよこたわっていた。重たく垂れこめた雨雲と、果てしない怒涛の荒海との見境もつかぬ遠い涯から、荒海のうねりが幾条となくけものようにおしよせて来ていた』

主人公の学生は梅雨の中、自殺するために足摺岬に来た。ずぶぬれでたどり着いた宿の内儀と娘の八重、そして年老いた遍路と薬売りが、主人公を介抱した。『のう、おのし。生きることは辛いものじゃが、生きておる方が、なんぼよいことか』と老人がいはげました。『これで治るぞね。これでじきに治るぞね』薬売りは丸薬をくれた。遍路たちは苦しい業をかかえ、悲しみを心にひめ、足摺岬に死に場所を求める者が多い。

『死のうと思っても、人間死ぬことが出来ぬこともある』と老人は過去を語った。幕末に東北の小藩が官軍とたたかって全滅し、家族死に絶えたことを話し、『夢だ』と叫び、真実の涙を流した。

学生も自殺しようと思ったが、理由ははっきりしなかった。夏の雨の日、岬への道を歩いた。自分の身体が人生に耐え得ぬことには気づいていた。

『目の前には、怒涛の海が涯もなくつづいている。私は幾十丈もの絶壁の上に立っているはずなのに、海の涯は私の眼よりはるかに高い虚空にそびえ立っていた。私は荒海の底に立っているのだろうか』この一節はまさに、三陸津波の姿ではあるまいか。

岬から宿へ帰ると、娘の八重が心配して、電柱のかげに立っていた。名を呼ぶと、彼女は瞳に涙を浮かべ、走り寄って来た。その後、二人は結婚した。東京に帰ったが八重は都会の生活が体に合わず、主人公の病が伝染して死んだ。

八重への思慕がこみ上げ、また足摺岬に行き、墓参りをした。特攻隊帰りの弟が同行した。

『誰のためにおれは死にそこなったんだ。日本が負けたもくそもあるか。俺に死ねといった奴は誰だ』と弟がわめいた。『夢だ』と叫んだ老人の遍路の声を聞いたように思った。すべてが夢であった。どこに夢でない真実があるのか。灯明が消え、あたりは闇に包まれた。

(三)

『死に急ぐ 作家よ 生きて 詰碁解け』

『足摺で 私は囲道の 道歩き』

昭和63年4月9日。田宮虎彦自殺。享年76才。港区北青山の自宅、メゾン青山のベランダから跳び降りたのである。足摺の海をベランダの窓から見たのか。海の呼び声に応じたのか。脳梗塞を起こし、入院し、リハビリを続けていたという。

虎彦は作品の中でひたすら死を追求し、その中から生きる意義を求め続けた。その人生のテーマにかかわらず自殺したのは何故か。しょせん人間は弱いものか。死の誘惑に勝てるものは少ないのか。

虎彦は作品の中でひたすら死を追求し、その中から生きる意義を求め続けた。その人生のテーマにかかわらず自殺したのは何故か。しょせん人間は弱いものか。死の誘惑に勝てるものは少ないのか。

作家には自殺者が多い。芥川龍之介は36才で、服毒自殺。三島由紀夫は45才で、市ヶ谷の自衛隊駐屯地で割腹した。さらにノーベル文学賞の川端康成は71才、自宅でガス管をくわえた。

私はようやく喜寿を迎え、虎彦の死期と同じ年ごろになった。足摺岬に同じように立ち、健康にも同様に不安を感じている。私は果たして耐えられるか。

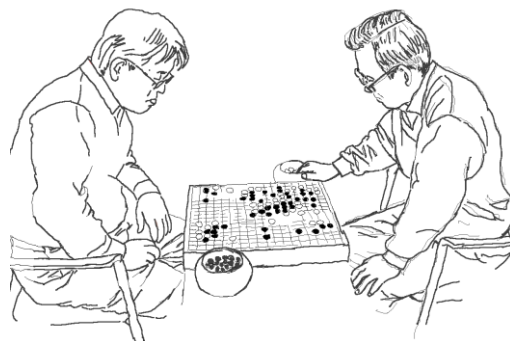
私は今、囲碁に感謝している。20才なかばで碁を知ったが、最初はつまらぬ遊びに過ぎないと思っていた。しかしその道の奥深さ。碁を打ちながら、棋書を読みながら、私は死活の心を学び、求めていたのである。石を活かす手筋は、人生におけるおのれの命を活かす道に通じているのではないのかと今にして思う。

『棋士の自殺など聞いたこともない。病に倒れ、死の床にあっても詰碁を楽しむ心。それこそ石にしがみついて、最後まで生きる心を持ち続けたいものだ』

私は田宮虎彦の霊に黙禱して、足摺岬の本を閉じた。

私が、碁を打ち始めたのは、二十年前になります。それより十年以上も前、碁の話聞いた事があります。それはNHKの早朝のラジオ番組で、人生読本という番組がありました。有名人や、色々な部門で活躍した人が、自分の人生を振り返って放送する番組です。私はその番組が大好きで、毎朝聞いていました。そんな時、藤田梧郎という方が、出演され、私は七十二年間、碁ばかり打って来ましたが、本当に悔いのない、すばらしい人生を送ってきたといわれていました。私はそれを聞いて、そんな人生もあるんだ。碁って何だろうと思いました。縁あって、碁の仲間に入り、ふっと藤田梧郎ってという人は、どんな人なんだろうと思うようになりました。周りの、碁を打つ人に聞いたところ、あまりはつきりしませんでした。ところが、三年位前、広島県福山市鞆の浦という海のそばで百面打ちがあり、木谷門下の大竹棋士、武宮棋士、小川誠子棋士、その他の棋士が来て下さり、大盛況でした。その時、私も参加しました。そのあと打ち上げ会があり、棋士の方が、舞台の上で、自己紹介などされました。その棋士の中に、坂口隆三さんという方がおられ、私は藤田梧郎の弟子ですと、自己紹介され、びっくりしました。私は坂口棋士に、思い切って話しかけました。藤田梧郎さんの事を聞かれました。すると立派な本を、送って下さいました。その本の中には、藤田梧郎棋士が人生読本でNHKラジオに出演された事、学生囲碁界の発展に尽力され、女性の囲碁の普及に力を入れ、又関西学生連盟、全国学生囲碁連盟を設立されたり、門下生には、林海峰棋士、坂口隆三棋士、天宅信雄棋士、辻井良太郎棋士、桜本三郎棋士その他の方もおられ、大勢の若者から慕われ、若者が、生き生き対戦出来る基礎を作られた事が書かれていました。私の長年の疑問が晴れました。この様な事をされた藤田梧郎棋士は、七十二年間、碁を打ち、悔いのない、楽しい人生だったといえると思ひ納得しました。

私も藤田梧郎棋士の百万分の一でよいから、碁に関して、何か出来ないかなと、思いました。そうだ碁石を持った事もない、やり方もわからないという、女の人を集めて、碁のサロンを作ろうと思い、友達に声をかけると、大勢来てくれました。その中には、私は囲碁は難しく、出来ないと思っていたが、ここで習い、主人と毎晩打っているのよ。こんな楽しい時間を、主人と過ごせるなんて、あなたのお蔭よといわれた時、囲碁サロンを開いて、よかったですと思いました。これからも、どんどん囲碁の出来る、女性を増やしていこうと、楽しみです。私にこんな思いを、起こしてくれた、藤田梧郎さんに、心から感謝しています。



◎第6回八碁連理事会報告

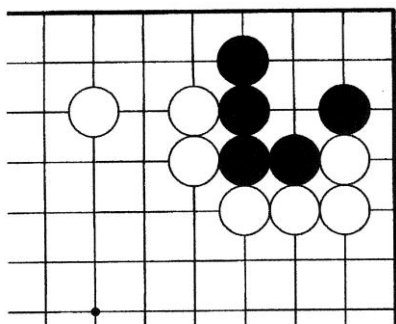
日時 平成24年8月25日(土) 9:00~12:00

出席者 理事6名

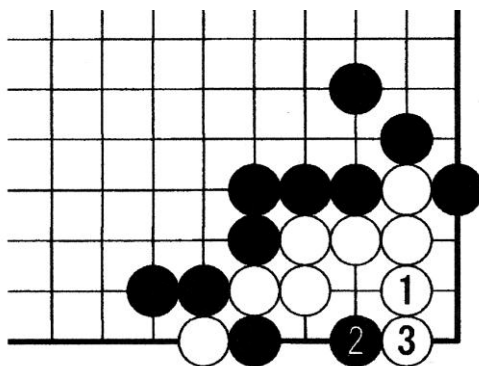
- 議案
1. 活性化実行委員会の議事録についての検討。
 2. 八王子市子ども囲碁大会について。
 3. 第62回 市民文化祭囲碁大会について
 4. 第23回八碁連囲碁大会について
 5. 南大沢研修部前期大会について
 6. その他

詰碁

白先黒死



前回解答



絹の道資料館 八王子は江戸時代の中ごろから養蚕・製糸・織物がさかんで桑都(くわのみやこ)として知られていました。黒船来航によって開港された横浜は海外貿易の拠点となり、八王子、長野、山梨、群馬などの各方面で生産された生糸が、八王子宿に集められ、生糸商人によって、横浜に運ばれ海外輸出の商品の花形となりました。その生糸が運ばれたルートのひとつが「絹の道」と呼ばれています。資料館は当時の豪商の屋敷跡に建てられました。

編集後記 子ども囲碁大会の参加状況が思わしくありません。みなさんのご協力をお願いします。
残暑が大変長く続きました。健康にご留意ください。